

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 竹前 昇
編集主筆 竹澤 知代志

日本基督教団年金の 過去・現在・将来



高橋 豊

はじめに

1. 一九六四年度に発足した教団年金制度については、四〇年余りの過去があり、その結果として現在がある。

そして将来については、在職四〇年の教師が隠退され終身遺族年金を含めて考えるとき六〇年余り先までを年金数理を用いて考えねばならない。

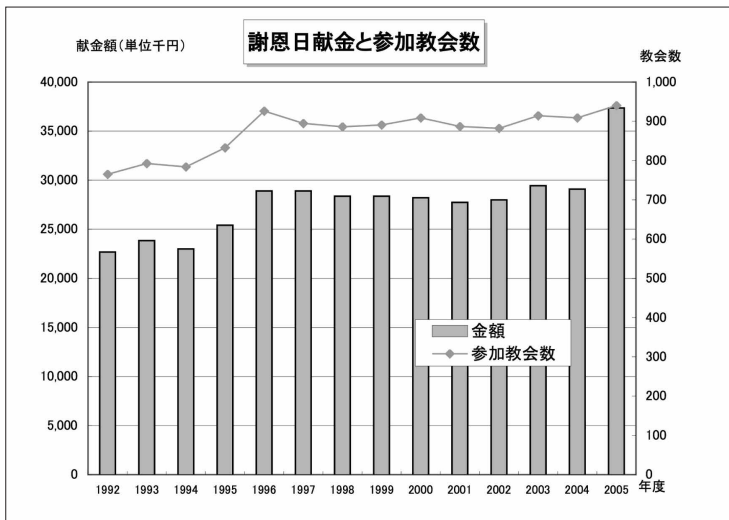
過去

2. 制度発足前に隠退された教師のために、教団は現行の教師退職年金制度とは別に、謝恩金制度を維持してきた。

この二つの制度を維持するために、「信徒運動として」「隠退教師を支える運動」が一九七八年の第20回教団総会で承認され現在年額七千万円がさげられるまでに成長してきている。そして謝恩金制度がその使命を全うする見通しも得られていることは感謝である。

3. 教師退職年金制度は、掛金制を導入しつつも給付の格差を小さくし連帯互助の制度設計がなされている。

一九六四年度発足後、過去勤務債務(積立不足)が発生し次第にその額は増加



4. 一九七六年第19回教団総会において設置が承認され翌年四月から業務を開始した年金局は、一九八八年以降過去勤務債務問題を提起し、一九八九年四月から掛金を6.0%から7.2%に引き上げた。

積立金不足については理解されにくく苦心が続くが、一九九六年第30回教団総会に至り積立金不足24億

円解消のために、収入増加(教団からの繰入増、年金協力金、加入者増、謝恩日献金の全教会参加)と支出削減(弔慰金)「クリスマス祝金」「配偶者加算」の三項目廃止、業務経費の節減により年1億1千万円の新たな財源を捻出する議案が可決された。

5. 二〇〇〇年第32回教団総会において、教団年金制度検証委員会の報告がなされ、前述の「一九九六年可決議案の評価と課題」および「検証にもとづく勧告」が示された。

この中で、年9千万円の財源捻出達成が確認されたが、一九九〇年代半ば以降の超低金利により事態は厳しい状況にあり、さらに財政検証を深め対策を講じることになった。

年金局の内部で年金数理のモデル計算に取り組んだ後、二〇〇三年と二〇〇六年の二回、三菱信託銀行(現・三菱UFJ信託銀行)の協力を得て財政検証を行った。

現在

6. 前述の二〇〇七年四月より実施される対策を織り込んだ財政検証を二〇〇六年春三菱UFJ信託銀行と協力し実施した。その結果を簡潔に述べれば次の二点である。

① 今後三〇年間責任準備金は111(現在)→115億円で推移し、積立金を控除した現在の過去勤務債務(積立不足)は74億円であること。② として現行掛金8.0%の中に含まれる過去勤務債務償却に充当できる部分(いわゆる第二掛金部分)と献金の現水準が維持されることを前提とした場合、実質積立不足の金額は40億円弱であること。

年金局理事会は、この財政検証結果にもとづく対策として、二〇〇七年度財務計画の中に「謝恩日献金」の8千万円増を計上し、常議員会を経て二〇〇六年一〇月の第35回教団総会においてこの計画案が承認された。これをどのように実現してゆくかがこれからの課題である。

7. 現在教団年金に加入しておられる教師は二〇五九名で、六五歳以上の現役教師はその約四分の一。給付を受けず掛金をかけてくださっているこれらの教師と教会による財政的貢献は年3億5千万円を超える。また「隠退教師を支える運動」「謝恩日献金」等献金の総額は年1億円を超える。連帯互助の性格の強い現行年金制度は、これらの尊い貢献によって支えられており、この世の年金制度に比し強みとなっている。

8. 在職四〇年の教師に支給される月額平均額6万9千円(最高額7万4千円)の教団年金をどう位置付けるか。私は隠退され牧師館を出られた教師の住宅費と考える。教師謝儀全国平均年額370万円(二〇〇七年額370万円)二〇〇七教団年鑑による)が意味するところは、在職中老後の住宅を用意する余裕もそして隠退後その謝儀に基づく公的年金の中から住宅費を捻出することも考え難いことである。公的年金(国民年金、厚生年金、私学共済年金)を生活費に当て、教団年金で住宅費を支える。教団年金を「公的年金とあいまって、隠退された教師とその家族の生活を守る年金」と位置づけたい。

将来

9. 教団年金の将来を展望する時、前述したように責任準備金はほぼ横這いで推移し、給

付債務が累増して年金財政が危機に瀕することは基本的にないと予測される。超低金利の中でも、一度も積立金を取り崩すことなく積み増しを続けて、現在37億円の積立金を堅持している。

とはいえ、今後留意すべき点を述べれば、二〇〇一年度の新規加入者平均年齢が三・九四歳であったのが二〇〇五年度には三・五八歳に上がっていることである。また加入者の年齢構成とくに六五歳以上の教師の比率の変動にも注目しなければならない。

積立金の運用については、安全性と運用実績向上の両立を目指すことになる。年8千万円の謝恩日献金増額について協議する理事会



「謝恩日献金」増額について協議する理事会

結び

10. 「宣教の視点から、全国すべての教会において献身されている教師と、これを支える家族の生活を守ること。隠退後の生活を支える年金給付においてその格差を極力縮小すること、そのために全教会が連帯し、教職・信徒が一体となって制度を支えること。教団はこの制度を支え抜くことを最重要課題として取り組むこと。」

以上は前述の二〇〇〇年教団総会で報告された検証委員会の書記として奉仕させていただいた私が「教団年金制度の検証にもとづく勧告」の結びの言葉として執筆させていただいたものであるが、今もこの思いは変わらない。

(教団年金局理事長)



ある時、先輩牧師が三〇年のローンで自宅を建てた。隠退までそんなには時間がないだろうと思い、「良くローンが組めましたね」とからかったら、「生命保険に加入させられたよ」と寂しげに答えた。「命が担保ですか」とつまらない軽口を叩いたことを、後に悔んだ。その人は、僅か数年後に亡くなった。▼牧師の妻だった人が、息子が家を建てたことで、初めて自分の家を持った。喜び安心した満面の笑みが忘れられない。それまでは彼女の家は教会。車椅子になっても、召される時まで、礼拝に通い続けた。▼八〇歳近い牧師の、涙を流しながらの訴えに、心をえぐられた。小さな教会と幼稚園に、生涯を捧げて来た。結果、その期を自覚しても、隠退後の住まいも生活の術もないという。しかし、自分の老いと共に教会が疲弊して行くのを見るのも辛い。▼天国に住まいを用意していただいている。しかし、それまでの時を過ごす家がある。いろいろな思い煩いを貯め込んで汚れた魂を休め、安らかな気持ちで、旅立ちの準備をしたいと言っているのは驚か。

教育基本法「改定」論議の奥にあるもの

東京信徒会講演会開催

一月二〇日(土) 富士見町教会を会場に東京信徒会が開かれた。参加者七十五名。開会礼拝、長村亮介牧師による説教「主よ、その水をください」に続き、聖学院大学の阿久戸光晴学長による講演が行なわれた。氏は「教育基本法『改定』論議の奥にあるもの…明日の日本社会に福音が訴えること」と題して、教育基本法論議の奥にある問題と教会のすべき社会的役割を語った。

冒頭、夏目漱石著「夢十夜」から「見えるものは、現れているものから出てくるのではなく、御言葉の中核とする明確なビジョンから現実構造となつて出てくる」として、教育目的の明確な姿を持ちながら考えようと前置した。

さらに現在の日本の状況を芥川龍之介著「トロツ」を引用して示唆した。トロツコおじさんの誘惑の結末から、一目散に母親の懷に飛び込んだ少年。主人公がその安住の地であるはずの故郷をはなれて、今東京で校正の仕事をしている現実。美しい日本に戻ろうとの掛け声のもとたらず状況がこの主人公と重なり合つて、ただ元に戻れば解決するとは言えない疑問が暗示されている。

原教育基本法の根本思想は明確な教育目的があり、人格の完成を目指し、自主的精神、自発的精神、普遍的にして個性豊かな文化、そこには個人と社会と国家の三分法が基本にある。しかしこの六〇年、こうした精神による国作りが成り功してこなかった。自由に入り込んだ腐敗が混乱を招き、腐敗した自由を理由に改定が行われた。

改定教育基本法は、個人の尊厳と公共の精神を並列においている。本来は、個人の尊厳の徹底から他者意識が生じるところに本質があるが、国家的公共性が強いと力強く結んだ。

(鈴木功男報)



聖学院大学・阿久戸光晴学長による講演



参加者は75名、説教、講演に傾聴する

また、豊かな情操から誘導される「心のノート」、自主自律の精神と勤労意欲の高揚、伝統文化の尊重、愛国心と郷土愛など微妙な問題を孕んで織り込まれている。

こうした日本の状況は、パウロの課題と重なり、コリント前・後書、ガラテヤ書から示唆される。

根本的体制は変つた。しかしその運用規範は未成熟であり自由の成熟育成の使命がある。教会はその社会的役割を、確かな「海図」と「風見と羅針盤」により果たしていくことが求められていると力強く結んだ。

(鈴木功男報)

昨秋の教団総会において承認された二〇〇七年度年金局計画額のうち「謝恩日献金」については、従来の三千万円に八千万円を加え、計一億一千万円としたが、これをどのように実現するかが今期理事会の大きな課題である。

年金財政を長期的に安定させるためには、年間八千万円の財源捻出が必要であり、これを「謝恩日献金」増額によって図ろうとするもので、①各教区が目標値を定め各教会・伝道所に訴えて献げる、②各教会・伝道所が目標値を定めて献げる、のいずれかによって具体的に展開していくことになっている。すでに取り組みを始めた教区、模索中の教区等、教区の状況が報告され、協議がなされた。

次回理事会は六月十一日～十二日の両日に開催される予定。

(青地恵報)

新理事長に高橋豊氏を選任

第一回年金局理事会

一月十九日(金)、第35総会期第一回年金局理事会が開催された。

出席者の自己紹介後組織会に入り、理事長に高橋豊氏が選任された。今総会期に限り副理事長をおくこととし、数田安晴氏を選任。常任理事として理事長、副理事長、池田浩二、中林克彦、足田國磨、総幹事の六名を選任、書記は池田浩二常任理事が担当することになった。

第30総会期以降、年金局理事は、各教区代表十七名を含む二名になった。この「教区代表」について、理事会の意を反映して教区に持ちかえる必要はあるが、理事個人としての発言



「摂理」のイベント・ステージ

に報道はされていたので見ていれば何の問題も感じられません。しかしその中で、気づかないうちに生き方がコントロールされてしまつたのです。何か変だなとも思つたり、すぐ調べたり、相談することが肝心です。

(愛澤豊重報)

「摂理」、入る前に気付くことが大事

少しもおかしいと思ったら

入試の季節になりました。もうすぐ学校は新入生を迎える時期になります。教団のある早稲田もこの時には新入生で溢れ、サクルの勧誘が大きな声で毎年なされます。カルトの勧誘もこの時期と秋の学園祭時期に最も盛んに行われます。

昨夏にマスコミで一斉に報道された「摂理」も、あの報道で衰退することはなく、この新人勧誘の時期に更なる「伝道」の強化を狙っているでしょう。

さいわいにも、入管法違反で告発していた件で、警察の強制捜索がこの一月に行われました。報道が続くことによつて、学生たちの予備知識が持続していくことこそ最高の予防になります。

実際の、入信してから気づいて脱会するのは非常に困難です。この強制捜査の対象になっている日本人支援者である会社社長二人の内の主導者である社長は、その息子が摂理のメンバーである関係で支援を始めたのでした。その問題について、入信してしまつてからは、気づかせるのが非常に困難であるという点にあります。ですから最も大事なことは、入る前に気づくことになりま

入信してしまつてからは、気づかせるのが非常に困難であるという点にあります。ですから最も大事なことは、入る前に気づくことになりま

入信してしまつてからは、気づかせるのが非常に困難であるという点にあります。ですから最も大事なことは、入る前に気づくことになりま



「摂理」のイベント・ステージ



第35総会期第1回年金局理事会

また、豊かな情操から誘導される「心のノート」、自主自律の精神と勤労意欲の高揚、伝統文化の尊重、愛国心と郷土愛など微妙な問題を孕んで織り込まれている。

こうした日本の状況は、パウロの課題と重なり、コリント前・後書、ガラテヤ書から示唆される。

根本的体制は変つた。しかしその運用規範は未成熟であり自由の成熟育成の使命がある。教会はその社会的役割を、確かな「海図」と「風見と羅針盤」により果たしていくことが求められていると力強く結んだ。

(鈴木功男報)

昨秋の教団総会において承認された二〇〇七年度年金局計画額のうち「謝恩日献金」については、従来の三千万円に八千万円を加え、計一億一千万円としたが、これをどのように実現するかが今期理事会の大きな課題である。

年金財政を長期的に安定させるためには、年間八千万円の財源捻出が必要であり、これを「謝恩日献金」増額によって図ろうとするもので、①各教区が目標値を定め各教会・伝道所に訴えて献げる、②各教会・伝道所が目標値を定めて献げる、のいずれかによって具体的に展開していくことになっている。すでに取り組みを始めた教区、模索中の教区等、教区の状況が報告され、協議がなされた。

次回理事会は六月十一日～十二日の両日に開催される予定。

(青地恵報)

呆田純一

伝道のともしび

福音の音色

ななえ七飯教会牧師 藤崎 裕之

二〇〇七年零時三八秒、自宅の窓を開けると、新年を告げる汽笛が聞こえて来ました。北海道の寒い夜空に響く汽笛は新しい希望を抱かせてくれます。

北海道の道南の中心は函館です。その函館港に停泊している船が新年と同時に一斉に汽笛を上げるのです。そして三八秒後に七飯の地にその凜とした音色が届くというわけです。

私には北海道に来て十六年目になります。十三年前に結婚しましたが、相手は小児科医師です。結婚当初は帯広教会にいました。妻はほとんど休みのない生活を送っておりまして。三六時間連続勤務はしばしばで、また夜間に呼び出されるので、小児病棟に駆けつける事は日常当たり前の生活でした。やがて妻は、義父が院長を務める七飯町の診療所に転任することになりました。私は色々と悩みましたが帯広教会を辞任し、妻に帯同しました。函館千歳教会で副牧師をしながら、しばらく診療所の理事として働く事となりました。七年前に義父の希望で、医院に来る高齢者のために介護病棟を開設しました。ちょうど、高齢者虐待とか介護地獄とか、そういう言葉を耳にし始めた頃でした。地域に住む高齢者たちが医療と介護を安心して受けられる場所を提供したいという理念に基づいています。義父は無教会派の信徒でした。クリスマス、収

苦勞が重なり私はうつ病になり、何か人生が崩れ落ちるような気持ちになりました。そのように時に、二年間無牧となっていた七飯教会から招聘を受けたのです。創立わずか五年で無牧となった教会、色々と混乱もあったようですが、でも私は自分の人生の原点は何であつたのかを思いおこし、神様に身を委ねる思いで招聘を受けました。

赴任最初の礼拝に集ったのは五名の信徒でした。数は少ないですがこの教会を守ってきた尊い五名です。五名の方々は涙を浮かべて私を迎えてくれました。以来五年、医院の仕事と平行して教会の仕事が続いています。この五年で医院の職員の中から受洗者が生まれましました。医院の患者さんで礼拝に集っている人もいます。隣の町や移住して来られた方もいます。今は十八名程で礼拝を守れるようになりました。それぞれがこ七飯に教会があるから礼拝に出席できる方々です。

汽笛は三八秒で届きますが、百十年かけて届いた福音の実りは豊かに響いてわたしたちの礼拝を潤してくれます。感謝しています。

して七飯の地に教団の教会が創立されたのは十一年前です。福音が実を結ぶのに百十年の歳月が費やされました。何と福音の伝達には時を要するのか、でもそれゆえにこの七飯の町に教会があることの責任の重さを感じています。

さて七飯町は道南の中域に位置する人口三万人の町です。主要産業は農業と牧畜です。町の面積は広く、また近隣の町村には教会がないので、大変広い地域を伝道圏としております。函館まで礼拝に行くのは難しいけれど、ここに教会があるから礼拝に出席できる」

どこには医院で礼拝を行っています。ところが私たちが七飯に来て二年足らずで、義父はすい臓癌で天に召されました。妻は急遽院長となり、私は病棟の責任者となりました。医院の運営や経営は全くの素人であり、お金の事や、人事のことなどうんざりするくらい苦勞しました。



2006 年クリスマス礼拝。出席者 33 名

お知らせ

主の御名を讃美いたします。

新しい主の年もさらに主のご委託に応えて福音宣教の業にお励みのことでありましょう。

さて、突然のことではありますが、報告をさせていただきます。

竹前昇総幹事が病気で倒れたことをめぐってであります。

総幹事は十二月二六日、体の不調を訴えられ正月明けに病院に行き、一月四日に入院されました。病名は、解離性大動脈瘤です。長期の療養が見込まれるところから、一月十二日付けで総幹事辞任の意向が総会議長に伝えられました。

十六日の役員会で祈りつつ協議した結果、辞意を重く受け止めつつも、現時点では下記の決定をなしましたのでお伝え申し上げます。

- 一、竹前昇総幹事を休職とし、しばし様子を見る。
- 一、愛澤豊重幹事を総幹事職務代行に任ずる。
- 一、役員で役割を分担し、内外の情勢に対応する。

どうか竹前昇総幹事のためご加禱下さい。

二〇〇七年一月十七日

日本基督教団 総会議長 山北 宣久

出版局ニュース

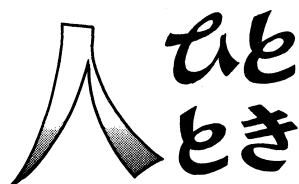
http://www.bp.uoi.or.jp

●新刊から

『第三世界』神学事典Ⅴ・ファベリア／R・S・スギルタラ・ジャール編 林蔵雄／志村貢Ⅱ訳 欧米の神学者中心から各地の民衆中心へ。「民衆の神学」「先住民の神学」「エコロジー」「アパルトヘイト」「脱植民地の神学」「平和」「和解」など、〈第三世界〉の視座から綴られる一八項目にわたる記述は、現代を共に生きる

私たちの信仰に深さと広がりを与える。A5判・三二二頁・五八八〇円

『かみさまはひつじかいーしへん23』へターシャ・テューターⅡ著 世界のキリスト者に愛され、深い慰めと励ましを与えてきた詩編のことは。この世界を、日本でも広く愛されている絵本作家が、美しく愛情にあふれた水彩画で描く。神さまへのたしかな信頼を子どもや動物たちの絵に託して高らかに歌いあげる。B5判変形・二八頁・二二六〇円



高澤亜美子さん

崩された時に残るもの



1974 年生まれ。聖路加国際病院看護師。千歳船橋教会員。

大学を出て、外食産業に勤めることになった。二四時間労働の厳しさの中、燃え尽きる寸前になり、体調も崩した。結局四年で退職せざるを得なかった。それまでは学生、会社員、と肩書きがあつた。しかしそれらが無くなった時、自分には何もないように感じた。プライドが崩され、自分の居場所まで無くなった気がして不安だった。そんな時、友人にクリスマス礼拝に誘われ参加した。高校卒業後「もう教会に行くことは二度と無い」と思っていたが、その礼拝の中で、自分の居場所が教会にあるような思いを与えられた。次の聖日から母が在籍する教会に出席した。自分もかつて教会学校に通った教会だった。その日の礼拝で語られた「あなたはそのまま愛されている」という言葉が自然に染みこんでた。今まで自分しか信じるものがなかった。でも本当は弱くても、惨めでも、愛されている。そう思った時、今までの自分が一気に崩され、肩の荷が下りた気がした。一年後、「自分より神さまを信じて生きたい」と受洗。教会学校に通っていた時の「人に仕える仕事が見たい」と言う思いを取り戻し、看護師を志して大学に再入学。卒業後、透析室に配属され、今に至る。新報四六二二号で取り上げた三ツ谷友起子姉は担当の患者さん。透析を受けに来る患者さんの

「緊急やむを得ない事項を処理する。」と37条②に明記されているのだから。

しかし、この常任常議員会の設置を数度、提案したものの強い反対に遭った。全教団で物事を推進するために与えられている教規に定められている常任常議員会が設置できず危機管理ができないとはどういうことなのか。

体調だけでなく、日々の重荷や心の疲れを聞く日々には、信仰が大きく影響すると思う。生死に関わる問題は、人間の力ではどうすることもできない。委ねるしかない。自分を通して、主が癒しの業を行って下さることを祈る毎日である。自分一人で背負い込むのではなく、みんなで歩んでいくのだと気付かされた。かつての職場では、自分の力のみを頼っていて、弱さを見せられなかった。でも、本当は力を合わせて助け合っていく場所だったのに、と気付かされた。今は、もっと自分の弱さを受け入れられる、見せられる、強さがほしいと感じている。

「緊急やむを得ない事項を処理する。」と37条②に明記されているのだから。

なるのではないが、寡頭政治に陥るのではないかの疑心暗鬼によるものと思われる。

危機管理

竹前昇総幹事が急病で倒れた。ただただ主の癒しを祈るばかりである。

それにしてもある。今回の総幹事が突然の病ゆえ、辞表を表明するという事態に対応する体制、つまり危機管理が教団には確立していない弱さが改めて浮き彫りにされたように思われる。

災害も含め、予期せぬ出来事が起こった時の対応のため教規にある「常任常議員会」の召集（教規第37条）によってかなりの部分で早急にして有効な手だてが取られるはずである。

対によって実現できていない。何故なのだろう。それは東京教区不在の約二〇年の間、地方教区の意見も反映できるようになったのに、常任常議員会を召集することにより、また中央集権的状况に

(教団総会議長 山北 宣久)